

見 る 知 る

じぶんの「まち」を

# ミルシル



## 夢はいつでも大きく、

## 夢をもつことが

## 私の原動力

- プロフィール -

水沼 喜代子 (みずぬま きよこ) さん。  
趣味は園芸。庭のバラ園を世話する。住民グループ  
「つながる絆あくつ協議体」のメンバー。

宝石台地区で美容室を営む水沼喜代子さんは、興味のあることにはどんどん挑戦していく行動力の持ち主。そんな水沼さんが、人とのつながりを持つことの面白さを教えてくださいました。

### 「頼まれたら引き受ける」が信条

田舎育ちだからかな、家に引きこもっているのは性に合わないんですよ。昔はお葬式があると近所の人がお手伝いに集まるでしょう？私もそこに交じって、野菜の切り方から何から全部、その場のお年寄りのいう事を聞きながら動いていました。年に何度もそういう付き合いがあって、大変でしたよ。近所づきあいが濃密なのね。でも、そういう“人の集まる場”に行くと、おしゃべりの中から地域の事情や人の動きなんかがわかって、面白いとも思っていました。ところが、ここ宝石台に移り住んでからは、そういう地域の付き合いがほとんどないでしょう？びっくりしましたよ。楽だけど、ちょっと寂しいですよ。人とつながる機会がたくさんあるほうが、面白い。

美容師をしているおかげで、お客さんとのつながりは持てるんです。でも、もっと外にも出てみたいと思って、とちぎ男女共同参画センター“パルティ”に通いました。その中でね、那須塩原市の旅館を営んでいる女性にインタビューをする機会があったんですよ。その方の信条が「頼まれたら、引き受ける」なんですって。私は感心してしまって、自分もそうなりたと思いました。以来、私を頼ってきてくれた人にはなるべく力になりたいし、引き受けるからには中途半端にはしないようにと努めています。

### つながり“続ける”コツは、好奇心

わりと興味関心が広いほうなので、パルティの他にも宇都宮大学の講座を受けに行ったり、色々な講演会を聞きに行ったりもしています。自分の知らないことを人から聞けるのが、楽しいですよ。良いことを知ると、真似してみようと思えるし、機会があれば人に提案できる材料になるしね。そうやってあちこちに出かけていると、新しい友だちができることもあるんです。友だちになると、時々「最近どう？」って連絡してみたり、あの人なら知っているかな？ということがあれば頼って聞いてみたいなんです。すると、相手も私のことを気にかけてくれてね、嬉しいですよ。町内だけじゃなくて、栃木県内に広くつながりを持てたことはとても良かったです。人とのつながりって、面白いんですよ。新しい情報が入って、そこからまた次のつながりが生まれていくんです。今の夢はね、そんなつながりが生まれる“居場所”を作ることです。いつか、美容室を改装して、ご近所さんたちがふらっとお茶飲みに来られるような場所にできたら良いなあって。実現できるかどうかはわからないけれど、夢を持つと、それに向かって色々なことを頑張れるんですよ。

### 元気の秘訣



お仕事や係を引き受けてみよう。誰かの役に立つことが自信になる！



なりたい自分を想像しよう。やりたいことがあるとエネルギーが湧く！

## NEWS 日常に見守り合いの視点を つなげる絆あくつ協議体

### 自然に見守り合いができる地域になるのが目標

前々回に発行されたミルシル夏号では、高齢になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らしていくために、自分たちの手で地域づくりをする住民グループ「北高くらし支え合い協議体」の活動をお伝えしました。今回は、阿久津中学校区の住民が集まる「つなげる絆あくつ協議体（以下、阿久津協議体）」のお話です。グループの目標は、北高くらし支え合い協議体と同じく「自然に見守り合いができる地域になる」こと。そこで、阿久津協議体は“住宅地が多く、ウォーキングや犬の散歩などで街中を歩く人がたくさんいる”という阿久津中学校区の地域性を活かした見守り合いの方法を考えました。

### 日課のお散歩の“ついで”に見守り合い

駅があってお店なども多い阿久津中学校区では、住宅が密集していて通勤や通学、お買い物や散歩のために街中を歩いて移動する人がたくさんいます。そこで、阿久津協議体は日々の散歩のついでに“さりげなく”周囲を見守り、また元気に歩く自分の姿を見守ってもらおうと考えました。「つなげるアイたかねざわ」と名付けたこの活動では、街を歩くときに緑色のオリジナルバンダナを身につけて、活動の目印にしています。

阿久津協議体のメンバーは、“自分たちにできることから、まずやってみる”をモットーにしています。「つなげるアイたかねざわ」の活動も、まずは友人や知り合いに口コミで協力を仰いでいきました。そして現在は、皆でバンダナを身につけて街を歩いて、散歩中の人にパンフレットを渡してPRする「バンダナウォーク」をしたり、皆でお店に行ってポスターを張ってもらえるよう依頼したりと、少しずつ活動を広めています。

“見守る人”と“見守られる人”が決まっている「一方通行の見守り」ではなく、互いに気かけ合う「見守り合い」を目指しています。



バンダナウォーク初回。南区公民館から周辺を巡るルートを歩いてPRしました。



この日は光陽台を出発し宝石台地区を巡るルートを歩いてPRしました。



中央図書館を出発して宝積寺駅でPR。ちよっ蔵情報館にはポスターも張ってもらっています。

発行者 | 高根沢町生活支援コーディネーター  
問合せ | 028-612-3440 (社会福祉協議会)

これまでのミルシルをご覧になれます   
<http://www.takashakyo.jp/> (社会福祉協議会HP)



社会福祉協議会は“すべての人が住み慣れた場所で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる地域”の実現を目指しています。この情報紙では地域で輝いている人を紹介していきます。身近に“輝く人”をご存じの方は、ぜひご連絡ください。